



令和4年
夏季ゼミ
地理的分野

岐阜市立藍川中学校
勝野陽介

価値に関する認識を形成する授業

「地理的な見方・考え方」を駆使し、
「今日の問題であるか」・「当事者意識をもてるか」を重視…
中1 第2章 世界の諸地域 6節「南アメリカ州」
中2 第4章 地域の在り方 (旧「身近な地域の調査」)を
中心に実践をしてきた。

価値に関する認識を形成する授業
世界の諸地域「南アメリカ州」での実践

南アメリカ州で開発が進展の中、「開発」か「環境」か、
相反する、対立する2つについて、
どちらを重視するかを考察し、判断するという実践。
課題例「あなたは、「開発」か「環境」、どちらを
優先させるべきだと考えますか。」

しかし、安易に「どちらをすべきか!？」という課題設定をしても、話し合いが成り立たないことがある。

・意見が変わらない、空中戦で終わる、そもそも話し合うだけの自分の考えがもててない、活動あって学び無し…。

・確かな事実認識があってこそ、価値に関する認識を形成する授業が成立する。

「南アメリカ州」実践例 郡上市立八幡西中学校
(白鳥中学校) 清水紀克教諭

選択・判断の授業、価値に関する認識を形成する授業の有効性を理解した上で、生徒の実態や発達段階を重視し、「なぜA社はエクアドルのBさんのバナナを輸入しているか」という課題を設定し、「A社は企業として、近くて安いフィリピン産を販売したほうが利益がでるからよいのではないか」という深めの発問を準備し、**持続可能な開発について考察し、事実に関する認識を獲得する授業。**

・生徒の実態を把握し、まずは確かな事実認識を!

「南アメリカ州」の単元指導計画の工夫は必須! 価値に関する認識を形成する授業が、[分の]の授業ではなく、単元を通して獲得してきた事実に関する認識が飛び交う授業になるように仕組む。

南アメリカ州はもちろん、世界の諸地域の学習の単元指導計画の工夫も必要。そうでなければ、中1で開発や経済成長、経済発展の価値は難しく、根柢の乏しい考えになる危険性がある。

「南アメリカ州」で、「開発(経済成長)」か「環境保全」かで、選択・判断させるなど、価値に関する認識を形成する授業を実践するために必要なこと

生徒の実態【これまでの指導やレディネステストから】

経済成長 > 環境保全 or 経済成長 < 環境保全

小学校の指導で、環境保全が大切、地球温暖化がとにかく問題、これからはとにかくSDGsと学習してきた場合⇒単元指導計画や手立ての工夫がなければ、開発か環境かの対立は起きにくく、話し合いは成り立たず、深い学びになりにくい。⇒生徒同士の話し合いでの「なるほど」「確かに」「わかったぞ」「よし！自分の考えはまとまった！」は既習内容があつてこそ！

「南アメリカ州」で、「経済成長」か「環境保全」で、価値の対立を生むために、世界の諸地域の単元を貫く課題を見つめ直し、単元指導計画を工夫する。

ヨーロッパ州では、なぜ統合をめぐる様々な動きが見られるのだろう。

アジア州は、なぜ急速な経済成長ができたのだろう。

なぜ、アメリカ合衆国は世界の中心となる経済大国なのだろう。

アフリカ州では、なぜ国際的な支援が必要とされているのか。

・経済成長か環境保全のどちらを優先すべきか。
・環境保全と開発はどのように両立していくとよいのだろう。



「事実か価値か」の二者択一ではなく、「価値に関する認識を形成する授業」を意識し、その接続、統合につながる「事実に関する認識を獲得する授業」の実践をした上で、「価値に関する認識を形成する授業」にチャレンジしていく！

・アジア州の経済成長の理由と課題をまとめる。

・アメリカ合衆国の魅力についてレーダーチャートにまとめる。

・ヨーロッパ統合のメリット・デメリットをまとめる。

・アフリカ州が自立するための支援策を考え、プレゼン発表する。



と併せて、今後の形成に資する力を養うのが教科が習い
 において、価値に関する認識を形成する授業は非常に重要！

そのために、これまでの中学校の実践(社会科研究)を踏まえ、「事実に関する認識
 を獲得する授業」の授業モデルを基に、「事実か価値か」の二者択一ではなく、
 生徒の実感をとらえて単元構成計画を工夫し、教材研究を通して、
 「事実に関する認識を獲得する授業」を確実にを行い、その上で、「価値に関する認
 識を形成する授業」を意識し、その接続、統合を意識しながら、「価値に関する
 認識を形成する授業」にチャレンジしていくことが大切だと考えている。

以上で地理的分野の発表を終わります。ありがとうございます。
